

●池子・米軍家族住宅建設問題の調停案づくり 八七年春～秋

国が逗子市池子弾薬庫跡地に米軍家族住宅建設を計画（八三年）、住民の激しい反対運動が起き、市長選で反対派の富野暉一郎氏が当選（八四年）。事態が混乱するなか国、市が知事に調停を依頼。私が知事の特命を受け、富野市長、宍倉防衛施設庁長官との間で調停案作りに奔走した（八七年春から秋）。この間、伊東正義自民党政調会長、栗原防衛庁長官にも協力を得るため何度か面談したが、関係者すべて、とくに伊東正義さんには人間的に深く共感するものがあった。

長官の「窮すれば変ず」のコメントに 打開の道ありと知事室に走る

（朝刊に出た栗原長官のインタビュー記事を読んで）

池子問題の特命受けて六本木 百回近く往復したり

（防衛庁、同施設庁は六本木にあった）

防衛庁の守衛もわれを覚えたり 挙手の礼して施設庁指差す

恐縮し会長室に入り行けば 「久保ちゃん こっちへ」と伊東会長

（自民党政調会長室に伊東正義さんを訪ねる。その温かさにホッとす）

長官の電話に驚きわが妻は 受話器に最敬礼しわれに渡せり

（栗原長官は出勤の途次、車からしばしば電話を入れてくれた）

調停案決裂寸前の知事公舎 庭の木立に夕闇迫る

会長の寸暇を得んと郡山 帰路の車中に面会求む（選挙区に帰った伊東会長を追っかける）

長官 会長 市長 知事 調停案書きつつ浮かぶ顔

国は受諾市は持ち帰り拒絶せり われは直ちに辞表を提出

決断なき人との交渉徒労なり われ放心しソファーに沈む